PHP新書「地震予報」読者の皆様へ
「№1778 長期継続大型地震推定前兆変動」
原稿校了後の前兆変動変化についての続報

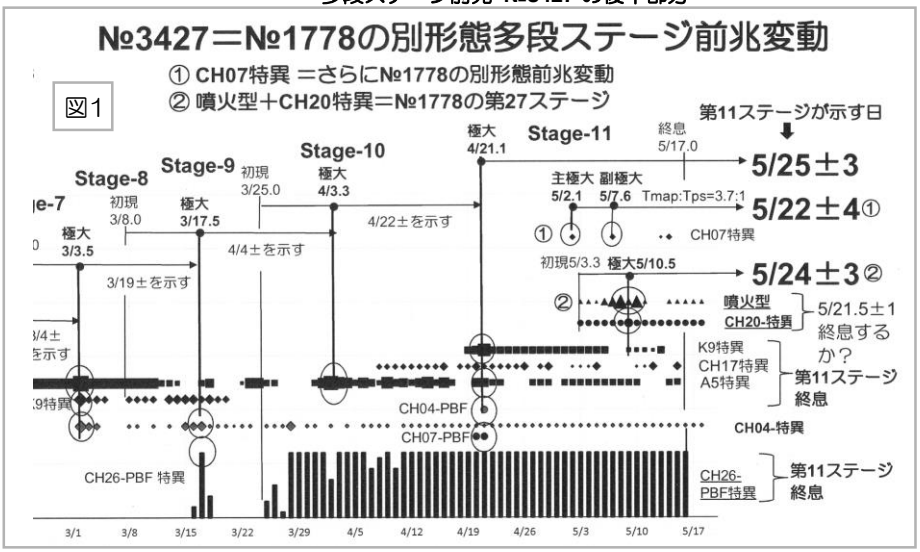
続報 № ３６２
2024.05/18（土曜）11：00 発表

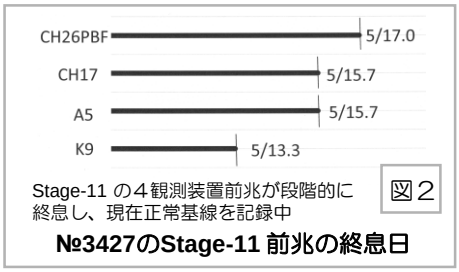
八ヶ岳南麓天文台　電離層モニター観測所　代表：串田嘉男
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1　研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

№1778 別形態多段ステージ前兆 №3427の Stage-11 前兆変動 終息認識
№1778 対応応地震 推定発生日＝５月２５日±２の可能性否定困難

多段ステージ前兆 №3427 の後半部分





◆№3427　Stage-11
極大 4/21.1～ 終息 5/17.0　Tmap:Tpp=3.9:1
計算される**推定発生日＝5/25±3**

◆① CH07特異　主極大 5/2.1　副極大 5/7.6
Tmap:Tps=平均値 3.7:1
計算される**推定発生日＝5/22±4**

◆② 噴火型前兆　№1778　Stage-27
初現 5/3.3 ～ 極大 5/10.5　Tfap:Tmap=20:13
計算される**推定発生日＝5/24±3**

表題及び図２のとおり、№1778の別形態多段ステージ前兆変動の第11ステージ前兆の終息が認識されます。これからは5/25±3発生の可能性が計算されます。図１のとおり、次の第12ステージは現れていませんので、第11ステージが№3427の最終ステージである可能性があります。その他、№1778の第27ステージ（火山噴火型）とCH07特異（主・副極大型）の変動から推定される時期を図２の下に記しました。静穏化していた八ヶ岳のCH20に特異が再出現していますが、噴火型変動と同じ動きで、関連変動の可能性と考えています（図１参照）。仮に5/25±2発生となる場合は、CH20特異は5/21.5±1時期に終息する可能性が計算できます。

噴火型前兆変動は火山噴火の可能性条件を満たしていますが、初現～極大の関係を通常の地震前兆変動の比率関係で計算しますと、他から推定される時期と調和します。従って、変動形態は噴火型ではありながら、地震前兆を示すため、火山近傍での地震活動を示す前兆と理解できます。このことから、地震に伴い噴火活動が必ず生じるとは断定できません。現在微弱に継続出現中。

右下枠内記の八ヶ岳の４観測装置に特異変動が継続していますが、これは観測点が震源に近いため消えないで地震発生となるのか、今後に続くのかは不明です。現状は5/25±2発生の可能性が考えやすい状況。前号記の5/23±3の誤差内ではありますが、前兆終息から若干の修正となります。5/28までに対応地震が発生せず、前兆変動が継続した場合は、再考して続報させて頂きます。№1778は初めて体験する観測歴上最長継続で最大難解な前兆変動であるため、何かが間違っている可能性も否めません。推定と違う場合はどうかお許し下さい。

●推定領域：図３の太線内領域＝大枠推定領域
図３の斜線域＝可能性考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：M8.0±0.3
※噴火型前兆変動が観測されているため震源に近い火山の噴火の可能性も否定困難ですが、過去例と異なるため、噴火に至らない可能性も有

●推定時期：5/25±2（5/25±1の可能性も有）
※修正が必要な変動が観測された場合は修正

〇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
〇推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3

最近の観測からは上点線より西側領域に震源がある可能性が考えやすい

八ケ岳の CH04、CH09、CH21、CH32

考えやすい推定領域内の主な火山

C) Copyright 2024 YSBO 八ヶ岳南麓天文台